

# 原発対策委員会新聞

社民党福島県連合原発対策委員会

発行責任者 小川右善

## 子ども被災者基本法・見直し修正を！

# 県要請・県民の意見を政府に

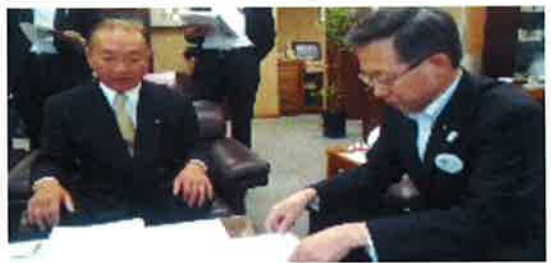
### 「ミシシベルト以上・健康手帳求める」

社民党県連は、十月十六日、東京電力福島第一原発事故の被災者を対象とする「子ども・被災者支援法」の基本方針に  
関し、県民の意見を踏まえた内容への見直しを政府に働きかけるよう県に要請した。

要請書は、閣議決定された基本法は、被災者を長期かつ幅広く支援する同法の基本理念に反し、被災者の意見を無視し国の責任を軽視したものであると前置きし、一、県独自の公聴会開催と意見のとりまとめ。二、年一ミシシベルト以上の地域を対象、三、居住、避難、帰還のいずれの選択にも支援。四、国の責任による県民健康調査、県民手帳の交付の実

現を政府に働きかけるよう求めた。小川右善代表以下、紺野長人県議など、数名で訪れ、村田副知事に要請書を手渡した。

村田副知事は「健康・医療を最も重視し、政府には引き続き、本県の実情を捉えた施策の具現化、財源措置を求めている」と応じた。



## ドイツ人医師フクシマ視察

十五、十六日、ドイツ人医師アンゲリカ・クラウセンさんが来日し、フクシマを訪れた。

ドイツは、冷戦構造下のなかアメリカを主軸とする核戦略の渦中にあり、絶えず核兵器への恐怖に晒されていた。そのことから、核を相容れない意識のなかで、原発の核も同様、核兵器廃絶と原発反対運動を同一視してたかいつづけてきた。チェルノブイリ原発事故を契機に、再生



可能エネルギーへと方針を転換し、そして、フクシマ事故後に脱原発を決定的にした。

今回のフクシマ事故にたいへん心痛め、ドイツの原発運動のグループの代表を担っているアンゲリカさんは、フクシマの現状と課題をまじかに視、感じたいと、三・一一以降、二回目の視察となった。フクシマ視察は、被災者宅訪問―避難地域（楢葉・富岡）視察―保健師さんとの交流―いわき・双葉との学習・交流―翌日、仮設での朝食交流―医療生協視察交流と盛りだくさんのスケジュールとなった。

涙を流す場面や精一杯の説明、矢継ぎ早の質問にフクシマと向き合う真剣さと誠意が伝わり、有意義な交流を堪能した。ストテキストストテキスト

二十七日、原発対策委員役員会を予定し、関係者にご案内をさせていただきます。役員会は、対策委員会のこれまで経過や情勢交流、それに対策委員会の県連合内の位置づけ、さらには役員候補強案、そして、当面する運動課題についてフリー討論をすることをしたいと考えています。忌憚のないご意見をください。汚染水問題、労働者の被ばく管理、枯渇問題と相俟つて深刻な事態になっています。ダレンクからの汚染水漏れ、地下水の汚染、配管や井戸水の高度汚染、ヒューマン



エラー問題、海洋への漏れ、台風時の対応など、これまでに三十数回のトラブルが発生、トラブ

